かわさき 図書館だより

第 10 号
平成 18年6月1日発行

図書館ホームページ：http://www.library.city.kawasaki.jp/

平成 18 年 4 月 1 日より

貸出カウンターが委託になりました

川崎市立図書館では、インターネットからの予約サービス開始などによる急激な利用の増加に対応するため、平成16年度より分館・閲覧所を除く地区館7館で返却カウンターなどの業務委託を行ってきました。

このたび、学校への読書活動支援や読書相談（調べ物への対応）などの業務をより活発に行うため、平成18年4月1日から貸出カウンターの業務を委託することになりました。

貸出カウンターの委託を行うにあたり図書館では「川崎市立図書館運営検討委員会」を設置し、図書館の将来的なサービスのあり方について検討を重ねてきました。また、図書館利用に関するアンケートも実施し、できるだけ多くの皆様のご意見をうかがってきました。その結果、職員がより専門的なサービスを行なえる体制が必要という結論になりました。

今後は、読書活動の支援や資料の一層の充実に努め、より皆様に愛される図書館を目指し、職員一同努力を重ね、また委託をうけた業者と従事する職員への指導も怠りのないようにこころがけます。

市民の皆様には、一層のご理解とご支援をいただけますようお願いいたします。

山崎洋子先生をお迎えして

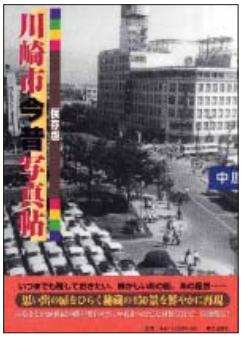
平成18年3月18日（土）
川崎市中小企業・婦人会館大ホールにて

春も浅い3月18日、作家の山崎洋子先生をお迎えして「読書のまち・かわさき」図書館講演会を開催いたしました。講演は「本に救われた波乱の人生」と題して、先生の半生と本との関わりについてお話をうかがいました。

先生は新城高校の出身で、お話は川崎に通学していた学生時代からはじまり、数奇な運命をたどった少女時代、そして、江戸川乱歩賞を受賞し作家としてデビューするまでの秘話など、まさに「波乱の」人生を語っていただきました。さまざまな波乱のあった人生を歩んできて思うことは、「どん底と思える境遇の中でも絶望しないこと、そして周囲からチヤホヤされる絶好調な時期には慢心しないこと」と語られました。参加者の皆様からのアンケートでは、「波乱の人生にびっくりした」「先生の生き方に勇気づけられた」などの感想がよせられました。また、先生のお話の随所に読書や創作に関するエピソードが登場し、読書への意欲が高まる内容でした。

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介していきます。
第2回目は、川崎の30年前、50年前の写真を集めた本を紹介いたします。
長年川崎に暮らしている方には“懐かしの”風景、最近川崎で暮らしはじめた方にはどうでしょうか？

第2回 懐かしの川崎？意外な川崎？



『川崎市今昔写真帖　保存版』
（郷土出版社）

川崎の昭和20年代～40年代の写真を中心に集められています。写真が撮られた場所の平成15年の写真が同じページに掲載されていて、町の変化が一目瞭然です。

『わが町の昔と今　第２巻』
（とうよこ沿線編集室）

川崎中部（幸区・中原区・高津区）の古い写真が数多く掲載されています。風景だけでなく人びとの生活を写した写真が数多く、添えられた当時のエピソードも楽しめます

『川崎市電の25年』
（ネコ・パブリッシング）

かつての川崎に市電が走っていたことをご存知ですか？バスのように小さな電車が川崎の街を走る姿がおさめられています。工業都市として発展していく川崎の様子が見てとれます。

川崎区・銀柳会通り入口の風景
《小串嘉男氏　昭和33年撮影》

Eメールの調べもの相談がスタートしました！

４月１日より、川崎市立図書館ホームページに調べもの相談のコーナーを設けました。
ＦＡＸやＥメールにて皆様からのレファレンス（調べものの相談）にお応えしています。
便利なサービスをご利用ください。

レファレンス（調べもの相談）の例

Q（利用者の方からのメール）うちの庭に最近タヌキがでます。タヌキの生態について知りたいのですが、図書館に調べられる本はありますか？

A（図書館からのメール）ホームページより調べもの相談をお寄せいただきありがとうございます。お問い合わせいただいた件について『動物レファレンス事典』（日外アソシエーツ／編）によると、16種の図鑑･辞典類にタヌキについての記述があるようです。 図書館所蔵の資料では 、『日本動物大百科1・ 哺乳類 』（平凡社）の116ｐ～ 119ｐにタヌキについての詳細が書かれています。
また児童書の扱いになりますが、
『タヌキまるごと図鑑』（盛口満／作　大日本図書）タヌキの骨格などの図版が掲載されています。
『タヌキの丘』（小川智彦／著　フレーベル館）タヌキの調査記録です。などの資料もあります。

図書館ホームページ：http://www.library.city.kawasaki.jp/

このコーナーでは、川崎で広く読書活動や、研究などにたずさわる方々の活躍を紹介しています。

本の世界で出会う感動と知識 読書で出会う人と人

読書会の活動をクローズアップ!

読書会とは、1冊の本についてお互いに読み合い、それぞれの意見や感想を交換し合う場を持っているグループです。今回は図書館と関わりのある読書会の活動をレポートします。

《幸読書会》
月に1回のペースで活動を続けています。

《幸読書会》1982年にスタートした幸読書会の活動は、今年で24年目！ 5月の会合では飯嶋和一（著）の『汝ふたたび故郷へ帰れず』をとりあげて、それぞれの意見・感想が交換されました。

「引きこまれた」「清々しい作品」といった感想、また逆に「ピンとこなかった」「あまり楽しくなかった」といった感想もあがり、自由で率直な意見がかわされていました。本に関連して話は最近のニュースなどでも盛り上がり、2時間の会合も短く感じられるくらいです。メンバーの方々に長年つづいてきた「コツ」をお聞きすると、解散を考えた時期もあったが、活動を「読書を楽しむ」ということに絞ったことで、メンバーの入れ替わりはあったが継続してこれたのではないか、とのこと。また、活動を通して得られた事をお聞きすると「自分だけでは絶対読まないような本と出会える」「1冊の本にまったく逆の感想があるのも楽しい」といった声があがり、読書を通した交流の充実感がうかがえました。

《ソフィア・ブッククラブ》高津図書館を活動場所としているソフィア・ブッククラブは、古今東西の名著・古典を中心に読書を行っています。5月の会合ではプラトンの『国家』がとりあげられていました。各メンバーは自由に意見を述べていき、それに対して会の代表であり、哲学の著作などもある大久保さんから現代の社会問題や映画などのエピソードを交えつつ読み解く手がかりとなる暗示、示唆が出されます。大久保さんにブッククラブをスタートしたきっかけをお聞きすると「最近では名著や古典など読む価値が高い本にふれる機会が失われていますので、名著を一般の人に広めていきたいと考えています」と語られました。またメンバーの方々に活動についてお聞きすると「一人では読みこなせない書物も知識や助言を得ながら身につけていけます。そして書物を通して社会問題や生きかたまで、自由に語り合えることの楽しさがあります」と語っていました。名著・古典、と聞くと身構えてしまいがちですが、その中には現代社会への教訓や、深い人生の知恵が凝縮されています。だからこそ名著は長い年月読み継がれてきたということが実感できる活動内容でした。

《ソフィア・ブッククラブ》
名著・古典の言葉から様々な真実が見えてきます。

------どちらの会もメンバーを募集中です。------
幸読書会の連絡先：549-0024（内山さん）
ソフィア・ブッククラブの連絡先：866-4791（大久保さん）

かわさき歴史めぐり (9)

徳川氏の関東入国と川崎市域－9－

法政大学名誉教授
村　上　　直

川崎市域を通る歴史の道は、東海道や中原街道とは別に、矢倉沢往還（通称・大山街道）や登戸道などが存在します。このうち、東海道は歴（れっき）とした街道、中原・矢倉沢は往還として機能を備えていますが、登戸道は、道の中間地点に形成された往還集落の「登戸」の地名を取り入れて、「武相登戸準往還」と称すべきであるという指摘があります（三輪修三『東海道川崎宿とその周辺』）。つまり、歴史の道については、それぞれの設定条件や機能によって、正しく分類することが大切であるといえましょう。

さて、これらの道は、古代や中世に存在した古道を接合しながら、江戸時代になると継立（つぎたて）や休泊の機能を整え、人々の交通や物資の輸送路として重要な役割を果たす道に発達していったのです。12世紀に鎌倉幕府が開設しますと、鎌倉に向う御家人たちの往来が多くなり、関東の各地からも鎌倉に至る道が整備されていきました。これらの道は江戸時代の『新編武蔵風土記稿』などに"鎌倉街道""鎌倉古街道""鎌倉道"と見えるので、鎌倉街道の名称がいろいろと呼ばれていたようです。また、『太平記』や『梅松論』の文中に「上路（武蔵路）」「中道」「下道」とありますので、関東では鎌倉へ向う道が大体、三つの幹線道路に分かれていたのではないかと考えられています。

このうち、西方から「上路」（上道）のコースは、鎌倉の化粧坂（けわいざか）口を出て、瀬谷原（横浜市瀬谷区）・小野路（東京都町田市）を北上し、関戸（多摩市）で多摩川を渡り、武蔵国国府（府中市）に至り、恋ヶ窪（国分寺市）や所沢市域を通り、現在の群馬県藤岡市寺山方面に向うのです。

「中道」（なかのみち）は幾つかのコースがあります。その中には上柏尾（横浜市戸塚区）、鶴峯（つるがみね）（同市旭区）、荏田（えだ）（同市緑区）、登戸（川崎市多摩区）で多摩川を渡り、是政（これまさ）（府中市）から武蔵国国府に至る道、又は、荏田から溝口（みぞのくち）（川崎市高津区）、二子の渡しで多摩川を渡り、世田谷（東京都世田谷区）、中野（中野区）の東京都域に入る道もあります。

「下道」（しものみち）には二つのコースがありますが、そのうち弘明寺（ぐみょうじ）（横浜市南区）から菊名（同市港北区）、綱島（同）、丸子の渡しで多摩川を渡り、同じく東京都域に入っています。このように鎌倉古道の主要な道筋は、多摩川に沿って、登戸、溝口、丸子などの地点を通って北上していたのです。

編集・発行　川崎市立中原図書館　〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417　TEL044-722-4932
川崎市立図書館：
川崎図書館(200-7011)　高津図書館(822-2413)　麻生図書館(951-1305)　大師分館(266-3550)　橘　分館(788-1531)
幸　図書館(541-3915)　宮前図書館(888-3918)　田島分館(333-9120)　柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)　多摩図書館(935-3400)　日吉分館(587-1491)　菅閲覧所(946-3271)